

世界中のものづくりを進化させ、 その先の豊かさを創る

FUJIIは、創業以来培ってきた精密技術と、挑戦し続ける姿勢である「innovative spirit」を原動力に、電子機器、半導体、AI、車載分野をはじめとする幅広い産業の発展を支えてきました。

その間も、テクノロジーの進化は、人々の暮らしや産業のあり方に大きな変化をもたらしており、その潮流は今後も続いています。

私たちは、こうした社会や産業の変化を新たな価値創造の機会と捉え、実装技術、自動化技術、ロボティクスの深化を通じて、お客様とともに次世代のものづくりを切り拓きます。

そして、世界中の産業基盤の発展に貢献することで、その先にある安全・安心で持続可能な社会と、人々の心豊かな暮らしの実現を目指します。

企業理念

パーパス

人々の 心豊かな 暮らしのために

コーポレートメッセージ

innovative spirit

わたしたちの価値観

PRECISION IN *ACTION*

挑み、極め、未来へ。

CONTENTS

イントロダクション

- 1 企業理念
- 3 人々の暮らしとFUJI
- 5 数字で見るFUJI
- 6 FUJIの歩み
ー 社会・産業の変化を、成長の力に ー

トップメッセージ

- 7 「個の成長」を原動力に、
次の成長領域を全方位で創出する

価値創造ストーリー

- 11 FUJIの価値創造
- 12 価値創造を支える6つの資本
- 13 FUJIのマテリアリティ
- 15 中期経営計画2026

成長戦略

- 17 CFOメッセージ
- 21 DX戦略
- 23 要素技術開発・知財戦略
- 25 全社戦略サマリー
- 27 ロボットソリューション事業
- 31 技術座談会
ー NXTR開発の裏側とDNAの継承
- 35 半導体製造装置(ファスフォードテクノロジー)
- 37 マシンツール事業
- 39 新規事業

サステナビリティ

- 41 FUJIのサステナビリティ
- 環境
- 43 環境マネジメント
- 44 TCFD提言に基づく情報開示
- 46 脱炭素への取り組み
- 社会
- 49 サプライチェーンエンゲージメント
- 50 サプライチェーンリスク
- 51 人的資本経営
- 52 人材戦略とKPIの連動
- 53 未来を担う人材の確保と育成基盤
- 54 競争力を支える人材の成長支援
- 55 ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 56 エンゲージメント向上と
働きがいのある環境づくり
- 57 持続的な企業成長を支える健康経営
- 58 人権尊重
- ガバナンス
- 59 役員一覧／スキルマトリックス／役員紹介
- 63 コーポレート・ガバナンス
- 64 企業価値向上を支えるガバナンスの実践
- 65 取締役会実効性評価
- 66 役員報酬
- 67 社外取締役対談
- 71 リスク管理
- 72 サイバーセキュリティへの取り組み
- 73 コンプライアンス
- 74 IR活動報告

データ

- 75 非財務データ 5年サマリー
- 77 財務データ 11年サマリー
- 78 会社情報

編集方針

本報告書は、FUJIグループの経営戦略および財務情報・非財務情報について、株主様、お客様、お取引先様、従業員、地域社会をはじめとするステークホルダーの皆様理解を深めていただくとともに、対話のツールとしてご活用いただくことを目的としています。

2025年度版では、FUJIの中長期的な企業価値向上への道筋を示すことを重視しました。トップメッセージでは次の成長領域を創出する経営の方向性を、CFOメッセージでは資本コストや資本効率、キャッシュアロケーション、株主還元を含む財務資本戦略を詳述しています。成長戦略では、高速・高精度実装や自動化を支える技術力、製品開発力、グローバルな販売・サービス体制など、FUJIの競争優位性を示しました。あわせて、環境、人的資本、サプライチェーン、ガバナンスに関する情報を拡充しています。当社は、今後も事業活動を通じた社会課題の解決と情報開示の拡充に取り組み、ステークホルダーの皆様との対話を深めることで、企業価値の向上に努めてまいります。

報告対象範囲

株式会社FUJIを中心に、グループ会社18社の活動について報告しています。一部は株式会社FUJI単体の内容です。

報告対象期間

2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日)
一部2026年度の情報も含まれます。

見通しに関する注意事項

本報告書を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本報告書の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。また本報告書に含まれる業績予測ならびに将来予測は、本報告書作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる場合があります。

参考にしたガイドライン

経済産業省
「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」



人々の暮らしとFUJI



事業内容

□ FUJIグループの製品 ■ FUJIグループの製品によってつくられるもの

電子部品実装ロボット (マウンター)

スマートフォンや家電製品、自動車などの中に搭載されている電子基板上に半導体や電子部品を高速かつ高精度に取り付けるロボット



NXTR

半導体製造装置 (ダイボンダ)

半導体製造の後工程において、ウェハから切り出したダイ(半導体素子)をパッケージに収納するために基板上に貼付ける装置



FASFORD TECHNOLOGY

工作機械

金属素材を切削・加工し、自動車や産業用機械などを構成する高精度な部品をつくり出す機械



CS SERIES

ライフサポート

介護・物流など幅広い分野で人々の暮らしに寄り添う製品・サービスを提供



FUJI



Quist

人々の暮らしとFUJI

産業を支える

ものづくり



スマートフォンや自動車、AIサーバーなど、私たちの暮らしや産業を支えるさまざまな製品には、電子基板や半導体が欠かせません。FUJIは、電子部品実装ロボットや半導体製造装置を通じて、これらの生産を支えています。高精度・高速な生産技術で、お客様の生産性と品質の向上に貢献し、世界のものづくりの発展を後押ししています。

暮らしを支える

くらし



ものづくりで培ったロボット・自動化技術を、人々の暮らしを支える分野へと広げています。スマートロッカーシステムによる物流の効率化や、介護ロボットによる介護・医療現場の負担軽減など、人手不足や高齢化といった社会課題の解決に向け、新たなソリューションを提供しています。

次世代を創る

みらい



ロボット、自動化、画像認識など、FUJIが培ってきた技術を基盤に、新たな領域への挑戦を続けています。社会や産業の変化を捉えながら技術の可能性を広げ、次世代のものづくりや暮らしに繋がる新たな価値の創出を通じて、社会の発展とFUJIの持続的な成長を目指します。

数字で見るFUJI

電子部品実装ロボット 世界トップクラスのシェア

株式会社FUJIは世の中の電子機器の発展に欠かせない電子部品実装ロボットのリーディングカンパニーです。

企業・人材



創業

1959年



連結従業員数

3,132名
(2026年3月末時点)



外国人雇用率

24.4%
(2026年3月末時点)

収益・財務



売上高

1,806億円
(2026年3月期)



営業利益率

16.2%
(2026年3月期)



自己資本比率

83.5%
(2026年3月末時点)

グローバル



海外売上高比率

90%以上
(2026年3月期)



セールス・サービス
ネットワーク

世界100拠点
以上



製品導入実績

70カ国
以上

技術・開発



国内外
特許登録件数

7,000件
以上
(2026年3月末時点)



研究開発費

85億円
(2026年3月期)



製品開発を
支える

要素技術開発
×
オープン
イノベーション

FUJIIの歩み — 社会・産業の変化を、成長の力に —

1959年の創業以来、FUJIIは社会や産業の変化を成長の機会と捉え、幾多の困難を技術革新で乗り越えながら挑戦を続けてきました。

その原動力となったのは、創業時から受け継がれる「現場から生まれる発明力」と「お客様に応える誠心誠意」の精神です。

この創業から受け継がれるDNAこそが、FUJIIの「innovative spirit」です。

創業期のものづくりへの情熱は、電子部品実装ロボットをはじめとする世界トップクラスの技術へと発展し、

現在では、自動化やスマートファクトリー、そして社会課題の解決につながる新たな領域へと広がっています。

変化を恐れず挑戦を続ける企業文化は、時代を超えて受け継がれ、

これからも持続的な企業価値向上の原動力であり続けます。

